

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>夢や希望を持ち、学び合い、未来に生きる力を育む生徒の育成 (めざす生徒像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○将来への夢を持ち、実現させようとする生徒 ○ルール大切さを知り、実行できる生徒 ○人権を尊重し、共に支え合い、高め合う生徒 ○身だしなみを整え、あいさつやそうじができ、時間を守る生徒 	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○わかる授業、学び合う授業の創造と学力の充実 ○キャリア教育・小中連携の充実 ○心が通う生徒指導の充実 ○人権教育の充実 ○健康・安全教育の充実 ○家庭・地域と連携した心を育てる教育の充実
---	---

<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>全国(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語Aは正答率が県平均とほぼ同じであり、国語Bはやや上回っている。 ○数学はA・Bともに正答率が県平均を下回っている。 ○国語については、話すこと・聞くことの領域の問題の正答率が全体的に高いが、読むことの領域の中に正答率が低い問題がある。(例 現実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す 本校90.0%(全国79.6%) 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する 本校66.0%(全国74.8%)) ○数学については、図形についての知識・理解や技能が身につけているが、数と式・関数・資料の活用についての知識・理解や技能に課題がある。(例 円柱の体積を求める 本校60.0%(全国51.8%) 多角形の内角の和の求め方を理解している 本校82.0%(全国69.4%) 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる 本校50.0%(全国62.2%) 与えられた比例のグラフからxとyの関係を表すことができる 本校44.0%(全国57.1%) 範囲の意味を理解している 本校16.0%(全国28.6%)) <p>県</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生の国語の正答率は県平均を上回り、数学は県平均とほぼ同じである。国語では、漢字の読み書き、文法、読む力が身につけているが、指示に従って構成や組立を考えて記述する力に課題がある。数学では、計算問題や図形の問題が身につけているが、表やグラフの読み取り、公式を当てはめる問題、百分率の計算等に課題がある。 ○2年生は国語・数学・英語とも正答率が県平均を下回っている。国語では、聞き取り、漢字の読み書き、読む力が身につけているが、自分でまとめて要約する力、別のことに置きかえて表現する力や分析する力等に課題がある。数学では、基本的な計算や技能の問題を解く力が身につけているが、関数や数学的に説明する力に課題がある。英語では、聞く力が身につけているが、読む力や英文を正しい語順で書くこと等に課題がある。 	<p>【学習状況調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあると答えた生徒の割合が、県平均よりかなり高い。 ○将来の夢や目標を持っている生徒の割合が県平均よりかなり高い。 ○家庭での学習時間(1時間以上)の割合は県平均とほぼ同じであるが、校内では30分以上1時間未満の割合が最も高い。 ○家で学校の宿題をしている生徒の割合が、県平均に比べて高い。予習をしている生徒の割合は県平均とほぼ同じだが、復習をしている生徒の割合は県平均に比べてかなり高い。 ○土・日の家庭での学習時間が1時間以上の生徒の割合が県平均に比べてやや高い。 ○国語や数学への関心等は、県平均に比べてかなり高い。 ○授業中の生徒間で話し合う活動をよく行っていると思っている生徒の割合が県平均を大きく上回っている。 ○平日にゲームをする時間が1時間以上の生徒の割合は県平均とほぼ同じだが、4時間以上している生徒の割合がやや高い。 ○テレビ等の視聴時間が1時間以上の生徒の割合が県平均に比べてやや高い。 ○平日に携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が1時間以上の生徒の割合が、県平均と比べてかなり低い。 ○携帯電話やスマートフォンの使い方、テレビやゲームの時間等についての家族間の約束やルールを決めている割合が、県平均よりかなり低い。 ○読書時間(30分以上)の割合や学校図書館や地域の図書館を週に1回以上利用する生徒の割合や読書が好きと答えた生徒の割合が、県平均より低い。 ○地域の行事に参加している生徒の割合が県平均よりかなり高い。 ○挨拶をしている生徒の割合が県平均より高い。

<p style="text-align: center;">成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○協同学習の定着により教室に「学び」が増えている。また、ICTの活用や教え合い等での「わかる」喜びが、学習意欲の向上につながっている。 ○ノーチャイムで生活することにより、時間の管理を自分でする習慣が身につく。授業に主体的に取り組むことができる。 ○朝読書の定着により、静かな状態で1日が始まり、落ち着いた学習環境が生まれ出ている。 ○日々の授業をはじめ学校行事や部活動等を通して、達成感や自己肯定感を高め、将来の夢や目標を持っている生徒が増えている。 ○問題データベースを多くの教科で活用しており基礎・基本の定着が図られている。 	<p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語では、漢字の読み書き等基本的な知識や理解はできているが、自分でまとめて要約する力や分析する力、別の表現に置き換える力等に課題がある。また、語彙力の乏しい生徒が多い。 ○数学では、基礎的な計算力や身につけているが、関数をはじめ表やグラフの読み取り、文章を読み取って解く問題、数学的に説明する問題に課題がある。特に関数の変域に関する問題の正答率が毎年低い。 ○英語では、長文を中心とする読む力や語順を並びかえて英作文をつくる等の書く力に課題がある。
--	--

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
○数学の計算力・技能・思考力を向上させる。	今年度中	・各学年ともTチャレの基礎的な問題の正答率を80%以上にさせる。	・毎週末の帰りの余の時間帯に、Tチャレの問題を解く。できなかったりわからなかった問題はグループで教え合う。	・Tチャレの数学の問題では、すべての学年で正答率が取組前を大きく上回った。全問での80%以上の正答率には至っていないが、大きな成果が出ている。	B	・Tチャレの補充問題を解き、ペアやグループで教え合う学習が定着し、確認テストの問題の多くの正答率が80%を超えた。	B	・Tチャレの問題を数学の授業の中で取り組むのか、今年度のように帰りの余で取り組むのか、年度当初に学校全体で共通理解し、有効に活用する。基礎につまずいている生徒の補充学習を計画する。
○読む力・書く力・語彙力を向上させる。	今年度中	・満一満ノートの書き写しと要約をしてノートを提出する生徒が90%以上である。 ・文を眺んだり書いたりすることを苦手としない生徒が増えている。	・毎週水曜日の帰りの余で書き写したい文章を3つの中から班で相談して1つ選び、読み合わせをする。書き写しと要約は宿題として、次の週ははじめの日の朝の余で集めて教職員が点検し、コメントを書いて返却する。	・ノートの提出が90%以上になっていないクラスもあるが、文章問題を解いたり、日常の意見をまとめる作業等に前向きに取り組む生徒が増えている。	B	・ノートを継続して提出している生徒を中心に、文を眺んだり書いたりする問題に対して根気強く取り組む生徒が増えているが、ノートの提出が90%以上にはならなかった。	B	・満一満ノートの取組を国語科の取組として行うのか、今年度のように宿題として取り組むのか、年度当初に学校全体で共通理解し、有効にノートを活用する。漢字コンクール等の新たな取組を考える。
○学習時間を増やす。	今年度中	・自主学習ノートの提出率が全クラスで80%を超えている。	・家庭学習時間確保のため学級委員会の活動を強化し、自主学習ノートの提出率を向上させる。	・学級委員が呼びかけたりチェックすることで、自主的に目標を達成できている。定期テスト前には10ページ以上取り組むなど、意欲的な生徒が増えている。	A	・学級委員会が呼びかけたり、教職員がコメントを書いて返却するなど成果として、80%以上の提出率を達成できた。質・量とも工夫したノートが多く見られた。	A	・学習の意義を一人一人の生徒にしっかりと考えさせる。ノーマディアや自主学習ノートの取組等、小学校や保護者の協力を得ながら家庭学習の質を高め、量を増やしていく。

*達成度 「S: 目標を大きく上回った(100%超)」 「A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C: 目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E: 目標を達成できなかった(30%未満)」

<p style="text-align: center;">小中連携の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校区の小中連携の研究授業を実施し、授業改善や児童生徒の情報交換を行う(6月)。 ○中学校区の小学校と連携してノーマディアの取組を行う(定期テストごと)。 	<p style="text-align: center;">保護者・地域へ理解・協力を求めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習について学級懇談や個別懇談等で呼びかけるとともに、学校評価アンケート等で意識調査を行う。 ○ノーマディアの取組に積極的に活かさせていただくように依頼する。 ○テスト計画表や長期休暇のしおり等に保護者のコメント欄を設け、生徒の生活の様子を見ていただくように依頼する。 ○テレビやゲームの時間、SNSの利用等について、家庭での約束やルール作りを依頼する。
--	--